

第 39 期 4thQGL 会議スピーチ

2012 年 1 月 19 日

『2011 年の振り返りと 2012 年の展望』

昨年は夏以降世界経済が失速して我々の業績も目標金額を大きく下回る月が多かったです。しかしリーマンショック最中から 3 年以上半導体業界は設備投資を絞られてきたので、今年欧州危機がソフトランディングに成功すれば春先以降設備投資の回復が進むだろうと予想しています。今現在挙げられるだけでも iPhone5 や MS8 の発売が予定されており、スマートフォンに乗り遅れたインテルがウルトラブック向けに本腰を入れる動きを見せています。ロンドン五輪で AV 機器の販売増と好材料が揃っている上、リーマンからはまだ復旧もしていない状況で伸び代が十分残っています。日本に限っては震災復興特需を織り込むことができるため 12 年度の半導体業界はかなり期待できる 1 年とっていいでしょう。

フロウエル社内では、80s 注 1 の開発が大詰めを迎えており、今年中の発売を目標にしています。また 70s 注 2 の新型治具がほぼ完成し、付帯設備の開発と全体の最終検証を行っています。大きなトピックとしては他に新基幹システムの構築が 2 月中に終わり、バグの修正などが完全に終了して 4 月からは問題なく運用される予定です。もう一つ 1 月中に 3FCR の拡張工事が完了し、2 月から実働開始してハウス生産 注 3 の増産体制を整えます。ハウスの受注状況をにらみつつ、そこで働くパート社員の募集タイミングを計っていきま

本社移転した翌月の年始挨拶で X 社の上級執行役員の方から、本社機能と開発機能は絶対に切り離さない方がいいという話を聞きました。以前から仲町台事業所を売却して広いオフィスを賃貸し本社と技術部・営業部が同居するアイデアを考えていました。ただし、コストがかかるため逡巡しておりましたが、やはりやらなければいけないと思いました。ゆくゆくは 1 棟で全拠点を統合する自社ビルを建てたいですが、その前にワンクッション入れて最も早くても 15 年半ば、普通で 17 年中、遅くとも 19 年中に再度の本社移転をしようと計画しています。

X社では、本社機能と開発機能が離れたために様々な問題がおこったらしく、それに対処するために多くのコミュニケーション推進システムを考えて実行してきたとのこと。我々ももう少しコミュニケーション推進について考えていかなければなりません。なにか提案や意見があれば、メールで送ってください。

宜しくお願いします。

注1 80s はフロウエルのメカニカルタイプフッ素樹脂継手 最高流体温度 230℃まで対応する世界最高水準の性能を誇るフラッグシップモデル

注2 70s はフロウエルの溶着タイプフッ素樹脂継手 配管に完全溶融するためメカニカルタイプで問題となりがちな施工のばらつきによる微小リークのリスクが全くなくなる

注3 ハウス生産とは、継手と曲げチューブを客先指定により予め配管したユニット状態で販売するサービス